



開山から1300年を誇る目の霊山

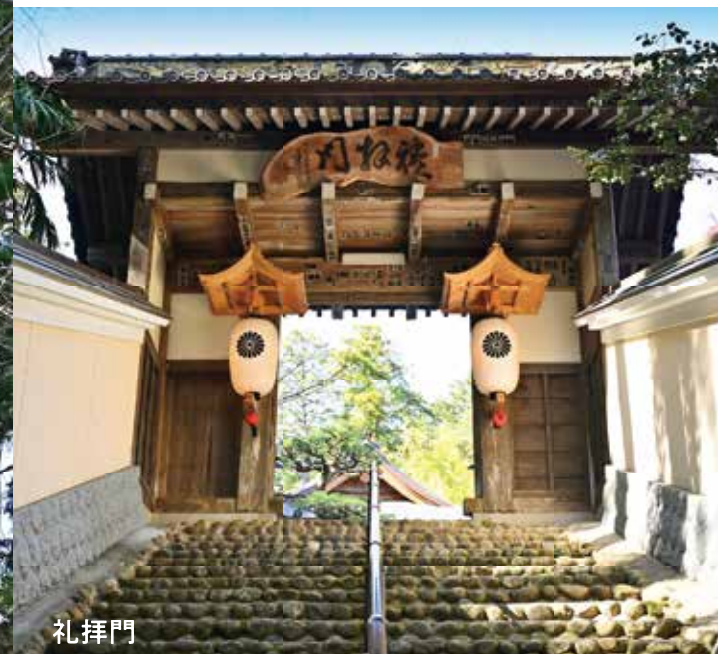
目の霊山 油山寺

行基により大宝元年(701)に開山された真言宗の古刹で、昔この山から油が湧いており「あぶらやま」と呼ばれたのが名前の由来。孝徳天皇が眼病時に霊水で眼を洗い全快したことから眼病治癒の寺として信仰を集めています。桃山の三名塔として知られる国指定重要文化財、三重の塔も見どころのひとつ。



絵馬

眼病や病気の平癒、足腰の守護を祈願して、たくさんの絵馬が奉納されています。瞳のように見える穴の空いた硬貨を使い、「め」「目」「眼」と書かれた木の板や紙は、眼病平癒、視力回復のお礼。



礼拝門



風鈴まつり

約200個の風鈴の音色と風に揺られる姿を求め、多くの参拝客が。風鈴は厄除け・魔除けのために吊るすという由来があり、寺院の文化を伝えています。



紅葉

秋の油山寺は約1500本ものモミジに覆われ、紅葉の名所としても知られています。燃えるように赤く色づいたモミジとキラキラと光る陽の光。まるで写真のような世界が広がります。

栄西の像

中国よりお茶の種を持ち帰り日本に伝えた栄西禅師。その功績をたたえ、静岡・袋井の名産である茶業の繁栄を祈り、昭和25年に立像が建てられました。11月に茶まつりを開催。



るりの滝

奈良時代に孝謙天皇が眼病を患った際に祈願を行い、ここの水で眼を洗ったところ病が完治したと伝えられている滝。祠には波切不動明王が祀られており、厳かな空気が参拝者を包みます。

